

## 滅菌オオサキOBリネンセットII

### 再使用禁止

**【禁忌・禁止】**  
 使用方法  
 ・再使用禁止  
 ・再滅菌禁止  
 ・開封後の未使用部材の再使用禁止  
 <シリンジ>  
 ・造影剤等の高圧注入には使用しないこと。  
 [破損の可能性がある。]  
 <延長チューブ>  
 ・血管造影等の高圧注入には使用しないこと。  
 [破損の可能性がある。]  
 <OPガーゼX青線、OPガーゼX黒線>  
 ・X線造影系部分を直接挟んで使用しないこと。  
 [切断又は抜け落ちて体内遺残するおそれがあるため。]  
 ・X線造影系に電気メス等を近づけないこと。  
 [切断又は引火するおそれがあるため。]  
 適用対象(患者)  
 <ポビドンヨード外用液>  
 ・本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。

### 【形状・構造及び原理等】

本品は、下表1.~4.に示す構成品のうち、2品目以上の構成品を組合せたものである。また、本品は医薬品(外皮用殺菌消毒薬)を組合せ、組合せ滅菌製品とする場合がある。

表1 構成品の種類、形状・構造など

#### 1.管理医療機器

|      | 構成品名            | 形状・構造など  |
|------|-----------------|--|
| 1)   | 吸引カテーテル         | 主に喀痰吸引、気道内喀痰除去の目的で用いる。   |
| 2)   | 羊水吸引カテーテル       | ポリ塩化ビニル(可塑性:フタル酸ジ-2-エチルヘキシル)を使用している。マウスピースから口、シリンジ又は吸引器で吸引し陰圧をかけることで、患者の様々な分泌物をチューブを介して吸引できる。また、吸引された分泌物等をトラップに回収し、検体検査用に使用することもできる。 |
| 3)   | ネラトンカテーテル       | 主に導尿、膀胱内洗浄、排液導管、喀痰吸引の目的に用いる。   |
| 4)   | 臍帯クリップ          | 新生児の臍帯血管を結紮するために用いる。ポリアセタールを使用している。  |
| 5)   | 針付シリンジ          | 外筒、押し子、ガスケット及び注射針(針基、針管、プロテクター)からなる。   |
| 6-1) | 注射針             | 液の注入又は排出を目的に注射筒などと共に用いる単回使用の滅菌済み注射針であり、針管、針基から構成されている。   |
| 6-2) | カテラン針           |  |
| 7)   | 輸血・カテーテル用延長チューブ | ポリ塩化ビニル(可塑性:トリメリット酸トリ-2-エチルヘキシル)を使用している。<br>※本品に使用するコネクター及び三方活栓にはポリカーボネート樹脂を使用している。  |
| 8)   | ディスポセッシ         | プラスチックをピンセット状に成型した製品である。ABS樹脂を使用している。  |

- ・石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
- ・電気的な絶縁性を持っているので、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないように注意すること。
- ・ポビドンヨード製剤を腔内に使用し、血中総ヨウ素値及び血中無機ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。

#### <1)、2)共通>

- ・カテーテルを挿入する際は、鼻腔及び気管の粘膜や組織を傷つけないように注意すること。
- ・吸引後、カテーテル内に残った吸引物が患者へ逆流するのを防ぐため、カテーテル内に吸い残しがないことを確認すること。
- ・キャップを外す際は、吸引物がこぼれないよう、また、手指に付着しないよう慎重に行うこと。
- ・トラップを検体保存用の容器として使用しないこと。

#### <1)、2)、3)共通>

- ・カテーテルが折り曲げられたり、引っ張られた状態で使用しないこと。
- ・カテーテルとコネクターなどの接続部には過度に引っ張る、押し込む、折り曲げるような負荷を加えないよう注意すること。[カテーテルの抜け、破損、伸びなどが生じる可能性がある。]
- ・カテーテル挿入時には、歯、鼻甲介等及び鋭い器具などでカテーテルに傷をつけないよう注意すること。[液漏れ、空気混入や破損が発生する可能性がある。]
- ・接液部を汚染させないこと。
- ・体動でねじれると流路が閉塞する可能性があるので注意すること。
- ・脂溶性の医薬品では、ポリ塩化ビニルの可塑性剤であるフタル酸ジ-2-エチルヘキシルが溶出する恐れがあるので注意すること。

#### <1)、2)、3)、5)、6-1)、6-2)、7)、17-1)、17-2)共通>

あらかじめ接続部に緩みがないことを確認してから使用すること。使用中は本品は本品の破損、接続部の緩み、空気混入、薬液漏れ及び詰まり等について、十分注意すること。

#### <1)、2)、3)、5)、6-1)、7)、17-1)、17-2)共通>

本品を鉗子等でつまんで傷をつけないように、さらに、はさみなどの鋭利なもので傷をつけないように注意すること。[液漏れ、空気混入や破損が生じる可能性がある。]

#### <1)、7)、17-1)、17-2)共通>

コネクターを接続する場合は、過度な締め付けをしないこと。[コネクターが外れなくなる。又は、コネクターが破損、接続部からの液漏れ、空気混入を生じる可能性がある。]

#### <5)、6-1)、6-2)共通>

薬液を針管に長時間接触させないこと。  
[薬液が結晶化し、針管に詰まる可能性がある。]

#### <5)、6-1)、6-2)、17-1)、17-2)共通>

低温下での衝撃で、破損する危険があるため、低温時の取り扱いに注意すること。

#### <5)、17-1)、17-2)共通>

- ・押し子はまっすぐに引くこと。  
[斜めに引くと、ガスケットと外筒との密着性が悪くなり、液漏れ、空気混入又はガスケットのはずれが生じる可能性がある。]
- ・外筒印刷部の目盛を越えて押し子を引かないこと。  
[押し子が外筒から抜けて液漏れ、空気混入が生じる可能性がある。]
- ・ガスケットに針等で傷をつけないこと。  
[破損が生じ、液漏れ、空気混入及び摺動抵抗の増加が生じる可能性がある。]
- ・外筒部を強く握る等、圧迫するような負荷を加えないこと。  
[圧迫によりガスケットと外筒との密着性が悪くなり、液漏れや空気混入が生じる可能性がある。]
- ・外筒印刷部をこすったり、あるいは薬液がついた状態で放置しないこと。  
[目盛等の印刷部が消える可能性がある。]
- ・使用するにあたって、目的とする製品であることを確認すること。

#### <11-1)、11-2)、11-3)、11-4)、11-5)、11-6)、11-7)

11-8)、11-9)、12)、13-1)、13-2)、15)、18)共通>  
体内へ留置しないこと。

#### <11-6)、11-7)、11-8)、11-9)共通>

・X線撮影において撮影体位や角度により陰影が不明瞭な場合がある。

#### <14-1)、14-2)、14-3)、14-4)共通>

- ・外科開口部や創傷部位に接触させないこと。
- ・本品の使用により、かぶれなどの皮膚障害が生じた場合、アレルギー症状を起こした場合には、ただちに本品の使用を中止し、適切な処置をすること。

#### <14-3)、14-4)共通>

- ・粘着テープを患者から除去する際は、粘着部を180°折り返すような方向へゆっくりとした速度で剥がし、除去すること。[皮膚が引っ張られ、皮膚剥離を起こすことがあるため。]
- ・パウチ内に貯留した血液、滲出液等を外科開口部等に逆流させないこと。
- ・パウチ内に鋼製小物などの重量物を入れないこと。
- ・粘着テープを使用する際は、消毒液が充分乾いてから使用すること。

#### <17-1)、17-2)共通>

ルアーキャップが外れたり、緩んでいる場合は、確実に固定すること。

### 3.妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

#### <2)ポビドンヨード外用液>

- ・妊娠中及び授乳中の婦人には、長期にわたる広範囲の使用は避けること。
- ・本剤を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起こしたとの報告がある。
- ・妊婦の腔内に長期間使用し、新生児に一過性の甲状腺機能低下を起こしたとの報告がある。
- ・ポビドンヨード製剤を腔内に使用し、乳汁中の総ヨウ素値が一過性に上昇したとの報告がある。

### 【保管方法及び有効期間等】

#### 1.貯蔵・保管方法

直射日光及び火気をさけ、湿気の少ない清潔な場所に保管すること。

#### 2.有効期間

容器又は被包の「使用期限」に表示【自己認証(当社データ)による】。

### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

#### 製造販売業者

オオサキメディカル株式会社

お問合わせ先 Tel 0120-15-0039

|     | 構成品名        | 形状・構造など  |
|-----|-------------|--|
| 18) | はさみ         | 作動・動作・原理:回転軸のある2枚の内向きの刃からなり、2枚の刃を閉じることによって対象物を切断する。ステンレスを使用している。   |
| 19) | バルブシリンジ     | ポリ塩化ビニル(可塑剤:フタル酸ジ-2-エチルヘキシル)を使用している。本品の圧縮後、開放時の復元力を利用して生理食塩水または唾液等の吸引を行い、再度本体を圧縮することにより目的部位の洗浄または内容物の排出を行う。                          |
| 20) | コネクティングチューブ | 本品は接続用チューブ(プラスチック製)で吸引器と回収容器とに接続し、体液を流通するのに用いられる。コネクタ付タイプとバルブタイプ、ストレートタイプがある。付属品としてチューブとチューブをつなげるためのアダプタとベッドシートにチューブを固定するためのクリップがある。 |

### 3.医薬品

|     | 構成品名       | 形状・構造など   |
|-----|------------|---|
| 21) | ポビドンヨード外用液 | 100ml中ポビドンヨード10g(有効ヨウ素として1g)を含有する。添加物としてラウロマクロゴール、pH調節材を含有している。黒褐色の液体で、弱いヨウ素臭がある。 |

### 4.付属品

|     | 構成品名       | 形状・構造など                     |
|-----|------------|-----------------------------|
| 22) | レギンスカバー    | 分娩台の汚染防止や患者脚部の保温、保護等に使用する脚袋 |
| 23) | 吸収マット      | 分娩台の汚染防止に使用するマット            |
| 24) | 吸収マット付きシート | 分娩台の汚染防止に使用するマットがついた敷布      |
| 25) | 防水シート      | 分娩台の汚染防止に使用する敷布             |
| 26) | 腹部シート      | 患者腹部の保温、汚染防止に使用する布          |
| 27) | ベビー受け      | 新生児の保温、保護や清拭に使用する布          |
| 28) | 分娩衣        | 分娩時の患者用衣                    |
| 29) | ガウン        | 術者、補助者等が着用する手術着             |
| 30) | エプロン       | 補助者等が着用するエプロン               |
| 31) | マスク        | 術者、補助者等が着用するマスク             |
| 32) | キャップ       | 術者、補助者等が着用する帽子              |
| 33) | ベビーキャップ    | 保温のために新生児に着用させる帽子           |
| 34) | 胎盤受け       | 胎盤を一時的に入れておく容器              |
| 35) | 膿盆         | ガーゼ等を一時的に入れておく容器            |
| 36) | トレー        | ガーゼ等を一時的に入れておく容器            |
| 37) | 水入れカップ     | 生理食塩水等を一時的に入れておく容器          |
| 38) | お産パッド      | 出産後の出血等を吸収させるパッド            |
| 39) | 直後パッド      | 出産後の出血等を吸収させるパッド            |
| 40) | ショーツ       | お産パッド等を体に固定するための下着          |
| 41) | 腹帯         | 患者腹部の保温に使用する腹巻              |
| 42) | タオル        | 患者、新生児の清拭等に使用するタオル          |
| 43) | 胎盤袋        | 胎盤の処理に使用する袋                 |
| 44) | 汚物袋        | ごみ袋                         |
| 45) | ネームバンド     | 患者、新生児の識別用名札                |
| 46) | クリップ       | シート等を分娩台に固定するためのクリップ        |
| 47) | 針受け        | 使用済みの注射針を一時保管する容器           |
| 48) | ラッピングクロス   | 製品開封時に清潔野を確保する布             |
| 49) | メジャー       | 胎盤、臍帯の計測用                   |
| 50) | 綿紐         | 器具等を固定するための紐                |

### 【使用目的又は効果】

本品は、医療機関における分娩処置時に使用される医療機器(管理医療機器、一般医療機器)、医薬品(外用殺菌消毒薬)、付属品(医療機器非該当品)を、それぞれの接続や嵌合などの加工をせず、医療機関等の求めに応じて組合せ、包装、滅菌することにより、看護師の分娩処置時における準備作業の簡便・迅速化を目的とした、単回使用のキット製品である。

### 【使用方法等】

本品は単回使用であり、再使用はできない。  
1.滅菌包装に破損等がないことを確認し、開封する。  
2.滅菌包装から中身を取り出し、適切な方法で展開する。  
3.構成品の種類、数量が、ラベル等に表示されている本品の構成内容と相違がないか確認する。  
4.各構成品を、医師の判断の元で実施する処置、手技の手順に沿って、各構成品の使用方法来に従い使用する。

#### ≪使用方法等に関連する使用上の注意≫

<2) 羊水吸引カテーテル>  
一回の吸引時間はなるべく短くすること。羊水等の量が多く一回の吸引で不十分な場合は必ず途中で休み、患者の状態を確認した後に行うこと。

<5) 針付シリンジ>  
注射針が外れていたり、緩んでいる場合には、プロテクターを付けたまま、しっかり固定し直すこと。

<7) 延長チューブ>  
・汚染を防ぐため、キャップのついていないコネクタには直接手を触れないよう注意すること。  
・十分嵌合したことを確認の上、使用すること。  
・コネクタのテーパー部に薬液を付着させないこと。[接続部の緩みが生じる場合がある。]  
・三方活栓から薬液を注入する場合は、空気の混入に注意すること。

<17-1) シリンジ>  
・注射針の装着は無理な力をかけずに行うこと。  
・ロックタイプを使用する際は、ロック部ネジを必要以上に回さないこと。

<18) はさみ>  
使用前に傷、変形の有無、ジョイント部の動き等に異常が無いことを確認すること。

<19) バルブシリンジ>  
・本体を握り圧縮した後、開放した時の復元力を利用して生理食塩水または唾液等の体液の吸引を行う。  
・本体内部に吸引物がある状態で、再び圧縮すると吸引物が先端部より放出されることにより、患部の洗浄もしくは吸引物の排出を行う。

<1)、3) 共通>  
・使用前に、カテーテルのサイズや形状が挿入部位に適合していることを確認すること。  
・カテーテル挿入に抵抗がある場合は、カテーテルを抜いて原因を解決した後、もう一度挿入し直すこと。  
・カテーテルを挿入する際は、挿入部位への入れすぎに注意すること。  
[カテーテルを抜去出来なくなる可能性がある。]

<1)、3)、5)、6-1)、6-2)、7)、17-1)、17-2) 共通>  
接続部への薬液又は血液、体液などの付着に注意すること。  
[接続部の緩みが生じる可能性がある。]

<1)、3)、17-1)、17-2) 共通>  
他の医療機器と併用する場合は、確実に接続又は取り付けられていることを確認し使用すること。

<5)、6-1)、6-2) 共通>  
・プロテクターをかぶせる際には、誤刺及びプロテクターからの針の飛び出しに注意して慎重に行うこと。  
・本品の針管部には直接手を触れないよう注意すること。  
・針基に過剰な負荷をかけないように注意すること。また、接続時や固定し直す際はプロテクターで針基に過剰な回転負荷をかけないように注意すること。  
[針管または針基が破損する可能性がある。]  
・プロテクターを外すとき、針先がプロテクターに触れないよう注意すること。  
[プロテクターが針に触れると刃先が変形し、穿刺しづらくなる場合がある。]  
・注射針をバイアルや輸液容器等のゴム栓に穿刺する場合は、なるべく刺通面に垂直に刺し、横方向に力を加えたり、同一部位に穿刺されることがないように注意すること。  
[注射針の曲がりや破損、容器内へのゴム片混入が生じる場合がある。]  
・アンプル等の薬液容器壁面に注射針が当たらないよう注意すること。  
[刃先が変形し、穿刺しづらくなる場合がある。]

<5)、17-1) 共通>  
・シリンジポンプを使用する場合は、シリンジポンプのメーカーに適用の可否を確認すること。  
・シリンジポンプを使用する場合は、シリンジポンプの添付文書及び取扱説明書を確認後、使用すること。

<5)、17-1)、17-2) 共通>  
・本品に強い力を加えないよう注意すること。  
[破損する可能性がある。]  
・接続部から液漏れなどの異常が認められた場合は使用しないこと。

<9)、10) 共通>  
鋭利な刃物であるため、刃先には十分注意すること。

<17-1)、17-2) 共通>  
コネクタ等と接続する際、筒先に横方向の力を加えないこと。  
[筒先の湾曲や破損などが生じる可能性がある。]

### 【使用上の注意】

1.使用注意(次の患者には慎重に適用すること。)  
<21) ポビドンヨード外用液>  
・甲状腺機能に異常のある患者には慎重に使用すること。  
[血中ヨウ素の調節ができず、甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。]  
・重症の熱傷患者には慎重に使用すること。  
[ヨウ素の吸収により、血中ヨウ素値が上昇することがある。]  
2.重要な基本的注意  
<全構成品共通>  
・本品出荷時は滅菌済みであるため、包装が開封、破損及び汚損している場合は使用せず、開封後は速やかに使用すること。  
・使用後は感染防止などに留意し、安全な方法で処分すること。  
・運搬・操作時には、振動や衝撃に注意すること。  
・本品はディスポーザブル製品であるため、一回限りの使用で使い捨て、再使用しないこと。

<2) 羊水吸引カテーテル>  
・羊水等の吸引以外の目的で使用しないこと。  
・使用前に、トラップにひび割れなどがなく、カテーテル及び吸引チューブに折れや閉鎖がないことを確認すること。  
・羊水等の吸引前に、マウスピースがシリンジ等に確実に接続されていることを確認すること。  
・医師の指示に従って使用すること。また、吸引器使用の場合、吸引圧設定は医師が行うか、医師の指示に従うこと。  
・トラップを傾けて使用しないこと。また、トラップの目盛以上に羊水等を吸引しないこと。  
・口で吸引する場合は、感染の危険があるので常にトラップ内の羊水等の量に注意すること。

<4) 臍帯クリップ>  
・臍帯は臍帯クランプの中央で結紮すること。  
・臍帯クランプは、結紮後24時間以上経ってから外すこと。

<7) 延長チューブ>  
・チューブが折り曲げられたり、引っ張られた状態で使用しないこと。  
・脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、三方活栓及びコネクタのひび割れについて注意すること。  
[薬液により三方活栓及び延長チューブ等のメスコネクターにひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入等の可能性がある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性がある。なお、過度の締め付け及びライン交換時の繰り返しの締め付け等はひび割れの発生を助長する要因となる。]  
・三方活栓付の場合、三方活栓から混注する際には、混注する薬剤を考慮し、必要に応じてフラッシュを行うなど適切な方法で行うこと。  
[混注後薬剤の一部が滞留し直ちに流れない可能性がある。]

<8) ディスポセッサ>  
・重いものや滑りやすいものを把持しないこと。  
・カテーテル等を強く把持すると、カテーテル等が変形することがあるため、注意すること。  
・必要に応じて感染防止のための手袋を着用すること。

<10) メス替刃>  
使用後は、ハンドルより取り外し感染防止に配慮して安全な方法で処分すること。

<17-1) シリンジ>  
・注射針等を接続し使用する場合には、誤刺に注意し慎重に取り扱うこと。  
・透析装置などの医療機器に装着して使用する場合は漏れに注意すること。

<18) はさみ>  
本品をクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)患者、またはその疑いのある患者に使用した場合はクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)に関する国内規制及びガイドライン等を遵守すること。

<20) コネクティングチューブ>  
ある程度の練り込み(黒い点)は発生するが、性能上影響はない。

<21) ポビドンヨード外用液>  
・ショック、アナフィラキシー様症状(呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等)(0.1%未満)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。  
・発疹、痒痒感、皮膚潰瘍、皮膚変色、接触皮膚炎、血中甲状腺ホルモン値(T<sub>3</sub>、T<sub>4</sub>値等)の上昇あるいは低下などの甲状腺機能異常などの症状が認められた場合には、使用を中止すること。  
・酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入すると偽陽性を示すことがある。  
・経口投与しないこと。  
・大量かつ長時間の接触によって接触皮膚炎、皮膚変色があられることがあるので、溶液の状態で長時間皮膚と接触させないこと。(本剤が手術時に体の下にたまった状態や、ガーゼ・シート等にしみ込み湿った状態で、長時間皮膚と接触しないよう消毒後は拭き取るか、乾燥させるなど注意すること。)  
・眼に入らないように注意すること。入った場合には、水でよく洗い流すこと。  
・深い創傷に使用する場合は希釈液としては生理食塩液か注射用水を用い、水道水や精製水を用いないこと。